事例No.	2868
公表年度	R5
団体の属性	都道府県
団体名	岡山県

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・人材確保・育成

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

アートで地域づくり実践講座

出典

地域づくり人材の養成に関する調査研究会（第5回）

都道府県名	岡山県
事　業　名	アートで地域づくり実践講座

概　要

○地域のイメージアップと賑わい創出を促進するアートイベント等を展開するための企画力、コーディネート力、広報技術などを学ぶことで、スキルを備えた人材を育成する講座

創設経緯等

○地域の活性化を進めるには、交流人口の増加が必要であり、その有効な手段の一つとして、文化芸術を活用し、地域のイメージアップと賑わい創出の促進を図ることが大事。

○地域で発掘、磨き上げた文化芸術を活かして、集客力のある企画を行うなど、アートマネジメント力のあるキーパーソンが地域に育つことが必要。

○アートイベントにおいて、大きな集客効果や旅行商品化などの効果がみられたことから、同様の効果を県内全域に広げるための素地づくりとして、スキルを備えた人材育成が必要と思慮。

（本事業の前身となる事業）
・H26～28　地域と人を文化でつなぐキーパーソン育成事業（まちアートマネジメント講座）
・H29～R2　文化プロジェクト推進事業（アートで地域づくり実践講座）
・R3～　　アートプロジェクトおかやま推進事業（文化芸術オーガナイザー育成・支援事業）

○当初は、講座の内容を講師に任せており、臨機応変にイベント開催に向けて講座の内容を調整していた。そこで、過去の講座の内容をまとめ、テキスト化。講座の中でもテキストとして活用し、説明が不足した際の補足や予習・復習をしやすくした。

○また、当日のイベントの運営についても、臨機応変に対応することが多く、ノウハウも残らず振り返りも記憶をたどるしかなかった。そのため、イベントごとに実施計画書の作成をさせることで、ノウハウの蓄積、振り返りの材料とするようにしている。

○11 月末にあるイベント終了した後は、モチベーションの低下を防ぐために、講座後の実際の活動についての企画書を提出させることで、モチベーションの維持と講座修了後の各自での地域づくり活動の後押しを行っている。

○講座の主たる目的であるイベントは、受講生同士の協議により、実施内容を決定するが、イニシアチブを取る受講生がいない場合は、企画自体が決まらず、詳細について詰め切れないままイベント当日を迎えることもあった。

○時間が足りないときは、講座外で臨時講座を行い、イベントに向けた準備を進めた。

事業の特徴

○地域との関わりを意識したイベントのノウハウを学ぶことで、県民が主催者としてアートイベントを自発的かつ継続的に行う流れを生み出すことで、アーティストの活躍の場や県民が文化に触れる場が増え、県民の文化活動への関心を高めていく好循環を生み出すきっかけとなっている。また、アートを通じた地域の活性化にも寄与している。

○受講生が携わってコンセプトから企画まで行い、イベントを自ら実践することで経験値を蓄えることができる。また、同じ志をもつ受講生とともにイベントを実施することで成功体験を得ることでき、講座修了後も、自発的にイベントをしてみようという意欲に繋がる。

○講座に集まった受講生同士はもちろん、講師陣や参加アーティスト、地域住民や行政（県職員、市町村職員）など、講座を通じて関わった人たちとの人脈が受講生の財産となっている。

○イベント企画を考える前に地域のフィールドワークをしてもらい、自由にやりたいことのアイデア出しをさせたり、自分が参加して良かったと思うイベントのプレゼンをさせたりするなどを通じ、自らの考えを講座の中で話しやすくする雰囲気作りを図っている。

○イベントの概要が固まった際は、地域の人を各戸訪問し、イベント概要説明の実施や、開催市町村職員に受講生からイベント内容をプレゼンする機会を設けるなどして、地域に受け入れてもらえるような工夫も凝らしている。

○イベント後にも、イベントの振り返りをさせながら自分の企画を考えさせるとともに、そのための資金が得られるよう助成金への応募を視野に入れた本格的な企画書の作成を行わせ、プレゼンをさせている。

○修了生には、活動状況について報告するよう依頼はしており、実際に、活動報告やチラシの送付なのでわかる場合もあるが、情報が入ってこない場合もありえる。ホームページやＳＮＳで調べられる範囲では事務局で確認している。

○受講生同士はもちろん、講師陣や参加アーティスト、地域住民や市町村職員など講座を通じて関わった人たちとの縁が、次年度の事業や他の事業に寄与している。

○修了生が試行錯誤しながら自らのイベントを企画・運営する姿を見ると講師陣や事務局員としてもやりがいがある。

市区町村との連携等

○事前に各市町村の意向等を確認しながら、講座開催に協力いただく市町村を選定している。

○開催地の市町村には、講座やイベント会場の提供や紹介などをお願いするほか、受講生への地域事情の紹介や、地域の方への参加の呼びかけ、協働先の紹介、イベントの後援などをお願いしている。

○過去の具体的な例としては、幼稚園児との共同作品作成のための段取りや、市町村が有する会場や備品の無償貸与やノベルティの提供、実証イベントプレゼンテーションへの参加などが事例としてある。

○修了生が次年度以降、地元の市町村なり、イベント開催の市町村なりで、アートを活用した地域活性化イベントを展開してくれることで貢献できるものと考えている。また、受講生の中には、市町村職員や地域おこし協力隊の方も参加していることもあり、講座の学びが直接活動に活かされている例もある。

受講費等

○受講費として 5,000 円（学生は 3,000 円）を徴収している。

参加者属性等

○開催地域の住民が多く参加してもらうことが希望であるが、開催場所によっては住民の参加がない場合もあった。ただし、イベントを通じて開催地域との縁ができたことで、居住していなくても講座後に開催地域で引き続きイベントをするようなケースもある。

○総じて女性の参加が多い。

実施方式等

○実行委員会方式で実施している。

受講生が自らイベントを考え、実際に行うためには、実行委員会方式が適当であると考えている。（直営や外部委託では、受講生の自主性を発揮する場面が少なくなる。）

受講生の反応等

○受講生等の直接の声については実証イベント視察概要を参照。

また、講座に関する受講生の反応は以下のとおり。

修了生へのアンケート

テキストは活用させていただきます。昨年はコロナで地域おこしイベントができませんでしたが、今年は開催に向けて準備中です。
テキストは講座を１冊で学べる内容だと感じた。地元の方と受講生が思いを共有できるような進め方ができるとやりがいが生まれると思う。
メールで送ってほしい。
テキストはわかりやすく使いやすそう。真庭で講座を開いていただきたい。
講座受講時にテキストが欲しかった。ジェンダーや差別について学んでほしい。
受講修了生の同期と会える機会を作ってほしい。
開催地を２巡し、修了生と新しい受講生で進めてみるのはどうか。

○受講終了後も修了生が行うイベントへの助成を行う他、修了生へのアンケートを行っている。また、アンケートに基づくフォローアップ講座を行い、関係を維持している。

さらに、講師は、修了生からのイベント実施に向けた相談も受けるなど、講座修了後のフォローアップも行っている。そのほか、修了生のイベントへの参加や情報交換を継続し、関係の維持にも努めている。

○講座ではイベント実施に向け、SNS をフルに活用し、講師、受講生間のやりとりを進めている。また、イベント外でも受講生が自ら自主的な交流会の開催を企画するなど関係性構築に向けた取組がなされている。実際に、講座修了後も SNS を使い、受講生同士の活動の情報交換やアドバイス等の協力などが行われている場合もある。

意義等

○アートを活用した地域活性化という考え方が、県内のいくつかの市町村にも浸透しつつあるが、より多くの市町村において取組みを進める状況となることが理想。

○県内の文化団体や、修了生をはじめとするアートに興味のある個人が、アートを活用した自

主企画イベントを、県内各地で実施することができる。

○これら環境が醸成できるまで、事業を継続したいと考えている。

今後の展望

○修了生が、修了後に、アートを活用した自主企画イベント実施するには、「地域住民の共感を得るのが難しい」「資金調達が難しい」などの様々なハードルがあることから、現在も行っているフォローアップ体制をより強固なものとすることを検討している。

その他（募集等）

○県ホームページへの掲載の他、県内市町村や関係文化施設等に設置したチラシによる募集。そのほかラジオやＳＮＳ等での広報も行っている。

○参加する属性を考慮し、美術館・図書館の他、ギャラリーやカルチャースクール等でもチラシを配付したことが効果的であったと考えている。

アートで地域づくり実践講座実証イベント「きざしの気配」視察概要

１．日時と場所

日時：令和４年 11 月 26 日（土）午前 10 時 00 分～午後 12 時 00 分
場所：街角ミュゼ牛窓文化館（岡山県瀬戸内市牛窓町 2835-1）

２．イベントの概要

文化芸術を活用して地域活性化に取り組む「アートで地域づくり実践講座」の受講生が、牛窓地区の文化、歴史、現状や課題を学びながら瀬戸内市牛窓地区（※）らしいイベントを模索、検討した集大成として、実証イベントを開催するもの。当日は受講生 10 名が参加した。

※「牛窓は、古くから西国航路の風待ち、潮待ちの港として栄え万葉集、山家集などに詠まれた町です。江戸時代には参勤交代や朝鮮通信使の寄港地として繁栄、その繁栄ぶりは牛窓千軒といわれるほどでした。細くくねった道筋に往時の繁栄を偲ぶことができます。」（出展：公益社団法人岡山県観光連盟 HP）

３．イベント内容

街角ミュゼ牛窓文化館建物内に、牛窓特有の時間を体験できる空間芸術を作成。中庭には、地域住民との交流を目的としたコミュニケーションスペースを設け、フィールドワークで得た住民のニーズを踏まえ、おでんと甘酒の出店を設けた。

４．参加者の感想等

・アートイベントを企画運営できる人材育成事業は素晴らしいと考える。
・出展した受講生の作品は、地域を芸術に落とし込んだもの。まず地域の歴史から調べ、地域の雰囲気、繋がりを持ったうえで、それを芸術に表現している。
・イベント会場（牛窓地区）の近くに移住、牛窓地区が盛り上がれば。と思い参加した。